

掲載号・キーワード・執筆者	内容
<p>その 11 (ニューズレター No.74 2013.9.13)</p> <p>じょうご造り民家</p> <p>執筆：後藤隆太郎 (佐賀大学・准教授)</p>  <p>じょうご造り民家 (「山口家住宅」国重文、佐賀市川副町大詫間)</p>	<p>じょうご造り民家は、屋根が漏斗（じょうご）のようにくぼんでいます。雨はそのくぼみから家の内部の樋（とい）を 通って外の桶に溜まります。有明海沿岸低平地にのみ確認でき、建築学や民俗学ではすこぶる有名、世界的にも希少な存在 です。</p> <p>外観は、屋根面が四方にまわる端正なスタイルですが、屋根内部の架構は複雑です。多雨な我が国で雨漏りの原因となる くぼみをつくってよいものか。島や乾燥地域ならまだしも、佐賀の低平地で雨水利用は必然なのか。</p> <p>この「かたち」をめぐる、幾つもの謎解きが試みられています。小部材を用いる必要があった＝木材不足説、屋根の 高さや面積を抑えて台風などに対応した＝強風対応説、また屋根や家の加重を分散させる不同沈下対策ではないか＝軟 弱地盤対応説などがあります。加えて私の研究室では、広く平坦な低平地では四方からの屋根の見え方が重要で、屋根谷 が見える「くど造り民家」からの発展、つまり住まい手が欲した「かたち」ではないか＝四方見え方重要説を研究中です。 じょうご造りは謎が多く、実に興味深いのです</p>
<p>その 12 (ニューズレター No.75 2013.12.19)</p> <p>クリークの水質</p> <p>執筆：三島悠一郎 (佐賀大学・講師)</p>  <p>早暁の佐賀平野を望む (多久市八幡岳)</p>	<p>低平地である佐賀平野はその名の通り平らな地形であり、広範囲の地盤高が平均満潮位よりも低という特徴を持ってい ます。そのため、水の流れは緩やかになり、クリーク網と相まって佐賀平野内に水が長時間滞留するので、クリークは汚 濁され易いと言えます。</p> <p>このような状況でも、今日のような大量生産・消費の社会構造では肥料や食糧など大量の物質が佐賀平野外から持ち込 まれて、消費されて水域へ排出されていますので、実はクリーク水の汚濁は自明の理です。もちろん、この汚濁された水 を下水処理のように浄化できますが、下水と違って広大なクリーク網の水を集めて浄化するのはコスト的に非現実的 でしょう。</p> <p>やはり水を流すことが一番の解決策です。諸事情で水を流せない場合には、例えば洪水対策としてクリークをより積極 的に活用して水を流す案も考えられます。</p> <p>低平地には色々と課題がありますが、それらを俯瞰して何かと何かを組み合わせれば意外に解決策が見えてくる こともあります。最先端の研究も重要ですが、このような技術の組合せを念頭に置いた研究も同様に重要であると思いつ つ研究を行っています。</p>

※執筆者の所属等はその当時のものです。